

情報公開文書

聖隷三方原病院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた検体やカルテ記録を利用することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究の計画や方法について詳しくお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ記録を利用することをご了解いただけない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (ABPA) 30例における細菌学的検討

[研究機関名] 聖隷三方原病院

[研究機関の長] 荻野和功

[研究責任者] 志村暢泰 (呼吸器内科・医師)

[研究の概要]

■ 目的・方法 (研究期間も含む)

研究期間：実施承認後～2023年12月31日

目的：アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (以下、ABPA) は気道内に吸入されたアスペルギルスが腐生し発芽後に形成された菌糸によってアレルギー性炎症を引き起こされる疾患で経口ステロイドが治療の主体となる。経過中に慢性下気道感染や抗酸菌感染を合併することがあるとされるが、実際にこれらの感染合併に関して検討した報告は少ない。当院においてABPM研究班のABPM臨床診断基準を満たす30例を対象としてどのような一般細菌及び抗酸菌がどの時期に検出されているかを後ろ向きに調査し、その臨床的特徴を明らかにする。

方法：カルテ情報を用いた観察研究

■ 対象となる患者さん

1989年5月1日から2022年9月28日までに当院でアレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (ABPA) と診断された方

■ 研究に用いる試料・情報の種類

試料：なし

情報：以下の臨床情報を診療録から取得します。

- ① 臨床所見 (生年月日、性別、初診日、ABPA・喘息診断日、病歴に関する情報 (既往歴・家族歴・生活歴))
- ② 検査所見 (血中好酸球・総IgE・特異的IgE・沈降抗体・特異的IgG・抗MAC抗体・MPO-ANCA、気管支鏡所見、喀痰・気管支洗浄液・肺組織培養、粘液栓内の糸状菌染色、CT所見、肺機能検査)
- ③ ABPA治療歴・喘息治療歴・合併する感染症に対する治療歴・増悪に対する治療歴
- ④ 転帰

[問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先]

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院

(様式 17)

研究番号	第 22-31
------	---------

志村暢泰、呼吸器内科

電話 053-436-1251 FAX 053-438-2971